

インターバンクの声（2017年1月5日）

おしなべてドルの堅調地合いで始まった新年の外国為替市場だが、早くもドルの上昇に勢いが無くなって来ているようにも見える。3日のアジア市場早朝から対円で1円以上、対ユーロでも100ポイント以上ドル買いが進んだが、足元のドル円は3日のスタート時点の水準に戻り、ユーロは既にスタート時点よりもドル安になっている。

豪ドルに対してはスタートこそ年末の水準より米ドル高で始まったが、そこから一度も米ドル高に進むことなしに豪ドルが反発している。

特にドル円は、一度118円60銭までドル買いが進んだにも関わらず118円台の滞空時間が思ったよりも長くならず、昨夜の海外市場では最近見られなかった117円台前半でのストップによるドル売りが多く見られたのも気になる。

トランプ次期大統領の一言で米フォードモーターがメキシコ新工場の建設計画を取りやめるなど、日本の自動車会社の北米での生産計画にも影響が出てきそうな雲行きだけに、ドル円の先行きにも不安が見え隠れし始めているのかも知れない。1月20日の大統領就任日までは、行け行けのトランプ相場継続などとの掛け声もあったが、すでにポジションを抱えている投資家は高値警戒感もあって慎重姿勢を保ったまま20日を迎えるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。